

—最終講義—

赤血球膜とともに26年

川崎医科大学内科学(血液)教授 八幡義人

このたび、定年によって、平成13年3月31日をもって、川崎医科大学教授(血液内科学)を退任することとなりましたが、皆様のお力添えによって、この日を迎えることができますことをまず最初に感謝申し上げます。

私は、1961年春、横浜市立大学医学部を卒業し、医学実地修練試験を経て、東京大学医学部第三内科(主任沖中重雄教授)への入局を許され、研鑽に励み、1969年から5ヶ年間の米国生活の後、1974年7月1日、新設私立医科大学である本学に助教授(血液内科学担当)として赴任し、3年間を経て、教授に就任した。ちょうど、この時私は41歳で全国で最年少の内科学教授であった。最近でこそ、40歳前半の内科学教授の方が居られるが、当時としては異例であったのかも知れない。

私の赴任については、その背景について少々触れておいた方が良いでしょう。大別すれば、訪米以前の第Ⅰ期^{1)~6)}、訪米中の第Ⅱ期^{7)~18)}、そして第Ⅲ期は川崎医科大学在任中^{19)~57)}となる。

第Ⅰ期で最も印象深かったのは、東京大学第三内科への入局であった。盛り上がる様な熱気溢れる教室のパワーは誠に圧巻であった。定年直前の円熟された沖中重雄先生と、教室の先生方の厳しい臨床・研究への情熱は私の心を熱くし、これが現在退任を直前にしている私に至ってもなお、脈々と生きており、泉源となった。その後も、第三内科の先生方には格別のご指導とお力添えを賜り、これなくしては、今日の私

はなかったと断言できる。

第Ⅱ期は、在米中の5年間である。この時期は、東京大学が学園紛争の真只中にあった時期に重なる。当初の2年間(1969-1971)は University of California at Los Angeles (UCLA) 医学部の Harbor Campus で、指導教授は Kouichi R. Tanaka 博士であった。先生は日本語に極めてご堪能であるのに、私の英語力の向上のためにと徹頭徹尾、忍耐強く英語で公私を貫かれた。私に多少の英語力、特に英会話力が身についたとすれば、Tanaka 教授のおかげである。後に、研究の国際化を進める上で力があったのは、私が1971年~1974年の3年間ご指導を戴いた Harry S. Jacob 教授 (University of Minnesota 医学部血液内科学教室、後に第42回米国血液学会会長) である。Jacob 教授が Harvard 大学のご出身であったことも力あって、その後、ご友人達に私を広く紹介して下さい、米国内に多数の学術上の友人ができ、今も私の貴重な人的財産となっている。また、並みいる多くの候補者の中から、外国籍(すなわち、日本人)のままの私をミネソタ州立大学(日本でいえば北海道大学に相当するか?)の正規の助教授 (Assistant Professor of Medicine) に推挙して下さい。そして、教室運営に関する帝王学を教授して下さい。さらに何よりも私にとって有り難かったのは、新設の血液内科学教室(当時、ミネソタ州立大学の内科学教室は臓器別の縦割り制度に移行中であった)の研究室の創設を私に一任下さったことであった。これは、後に私が本学に赴任して研究

47. Yawata Y, Kanzaki A, Yawata A, Doerfler W, Özcan R, Eber SW : Characteristic features of the genotype and phenotype of hereditary spherocytosis in the Japanese population. *Int J Hematol* 71 : 118-135, 2000
48. Yawata Y : Genotyping and phenotyping characteristics in hereditary red cell membrane disorders. *Gene Func Dis*, in press (2001)
49. Yawata Y, Kanzaki A, Yawata A, Nakanishi H, Kaku M : Red cell membrane disorders in Japan : Their genotypic and phenotypic features. *Hematology*, in press (2001)
50. Yawata A, Kanzaki A, Uehira K, Yawata Y : A surface replica method : a useful tool for studies of the cytoskeletal network in red cell membranes of normal subjects and patients with a β -spectrin mutant (spectrin Le Puy : $\beta^{220/214}$). *Virchows Archiv* 425 : 297-304, 1994
51. Inaba M, Yawata A, Koshino I, Sato K, Takeuchi M, Takakuwa Y, Manno S, Yawata Y, Kanzaki A, Sakai J, Ban A, Ono K, Maede Y : Defective anion transport and marked spherocytosis with membrane instability caused by hereditary total deficiency of red cell band 3 in cattle due to a nonsense mutation. *J Clin Invest* 97 : 1804-1817, 1996
52. Yawata A, Kanzaki A, Gilsanz F, Delaunay J, Yawata Y : A markedly disrupted skeletal network with abnormally distributed intramembrane particles in complete protein 4.1-deficient red blood cells (allele 4.1 Madrid) : implications regarding a critical role of protein 4.1 in maintenance of the integrity of the red blood cell membrane. *Blood* 90 : 2471-2481, 1997
53. Wada H, Suda T, Miura Y, Kajii E, Ikemoto S, Yawata Y : Expression of major blood group antigens on human erythroid cells in a two-phase liquid culture system. *Blood* 75 : 505-511, 1990
54. Wada H, Kanzaki A, Yawata A, Inoue T, Kaku M, Takezono M, Sugihara T, Yamada O, Yawata Y : Late expression of red cell membrane protein 4.2 in normal human erythroid maturation with seven isoforms of the protein 4.2 gene. *Exp Hematol* 27 : 54-62, 1999
55. Remus R, Zeschnick M, Zuther I, Kanzaki A, Wada H, Yawata A, Muiznieks I, Schmitz B, Schell G, Yawata Y, Doerfler W : The state of DNA methylation in the promotor regions of the human red cell membrane protein (band 3, protein 4.2, and β -spectrin) genes. *Gene Func Dis*, in press (2001)
56. Yawata Y, Remus R, Zeschnick M, Zuther I, Muiznieks I, Doerfler W, Kanzaki A, Wada H, Nakanishi H, Yawata A : The expression of protein 4.2 is related to the state of methylation of the 5'-CpG-3' sites of the ELB42 promoter during human erythroid differentiation. *Blood* 96 : 592a, 2000
57. 八幡義人 : Genome から Postgenome の時代へ : 赤血球膜異常症の研究から. *臨床血液* 42 : 343-351, 2001

略 歴

- 昭和11年2月7日 鎌倉市に生まれる
- 昭和36年3月 横浜市立大学医学部医学科卒業
- 昭和37年3月 医学実地修練修了
(東京大学医学部付属病院)
- 昭和37年4月 東京大学医学部第3内科学教室
(主任冲中重雄教授)へ入局
- 昭和39年8月 東京大学医学部付属病院 助手
- 昭和42年11月 医学博士号授与さる(東京大学 第1333号)
- 昭和44年7月～
昭和46年6月 米国カリフォルニア州立大学(UCLA)医学部内科(血液)学教室
(主任 Kouichi R. Tanaka 教授)(Research Specialist)
- 昭和46年7月～
昭和49年6月 米国ミネソタ州立大学医学部内科学教室血液学部門
(主任 Harry S. Jacob 教授)教室へ移籍
その間, Assistant Professor of Medicine (Hematology)に就任(1972年7月～1974年6月)
- 昭和49年6月 東京大学医学部第3内科へ帰局
- 昭和49年7月 川崎医科大学内科学(血液学部門)助教授に就任
- 昭和52年10月 川崎医科大学内科学(血液学部門)教授に昇任
- 平成8年4月～
平成13年3月 川崎医科大学 生化学センター長
- 平成13年3月 定年により川崎医科大学教授退職
川崎医科大学名誉教授
- 平成13年4月 川崎医療短期大学(介護福祉科)教授
現在に至る



○学会活動ほか

日本内科学会 功労会員, 第84回日本内科学会中国地方会会長(2001)

日本血液学会 名誉会員

日本臨床血液学会 名誉会員, 代表幹事(中国四国地区担当), 会長(1999～2000)として
第42回総会(於倉敷)を主宰

American Society of Hematology: 正会員

American Society for Clinical Research: Senior member

International Society of Hematology: 正会員

European Haematology Association: 正会員

日本学術審議会委員, ほか

厚生省特定疾患 特発性造血障害 調査研究班班員(1975～1996)

同 血液系疾患調査研究班 特発性造血障害分科会：研究協力者（1997～現在）
中谷電子計測技術振興財団 評議員（1990～現在）
日本学術振興会日仏科学協力事業共同研究 日本側研究代表者（1992～1994）
日本学術振興会日独科学協力事業共同研究 日本側研究代表者（1997～1999）
文部省国際学術研究日仏共同研究 日本側研究代表者（1994～1996/1996～1997）
文部省国際学術研究日独共同研究 日本側研究代表者（1997～1998/1998～2000）
Journal of Laboratory and Clinical Medicine：Reviewing Editorial Board
Gene Function and Disease：Associate Editor
Hematology/Oncology Today：Associate Editor